

施 策：	23	循環型・低炭素・自然共生社会の推進	財務コード	01040106-03-309
基本事業：	05	自然共生社会の推進	担当部	環境経済部
基本事業の 成果指標	自然環境学習の参加者数		担当課	環境課
			担当係	環境保全



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画		
1．対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2．手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市民			■環境に関する絵画を小中学生から募集し、環境問題を考える機会とする ■小学4年生を対象とする環境学習の副読本「地球にやさしくなる本」を作成し、環境問題の教材として配布する ■自然とふれあい、学習する機会を提供し、人と自然が共存する重要性を認識してもらうことを目的に環境指標の森での自然観察会、星空観察会、水辺観察会を行う ■「環境フェア」の開催により、環境保全やごみ減量などの啓発を行う ■小学生に出前講座を開催し、環境に関するカリキュラムを支援する						
3．意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
環境保全活動が自主的に行われるよう市民の環境問題に対する意識を向上させる。									
4．成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	04年度 実績	05年度 実績	06年度 当初	07年度 要求	08年度 計画	09年度 計画	目標
観察会参加者数		人	267	295	300	260			135
観察会参加者の環境に関する意識変化率		%	100	100	80	80			90
5．コスト									
事業費		計	千円	555	575	1,228	1,318		
		国	千円	0		0	0		
		県	千円	0		0	0		
		地方債	千円	0		0	0		
		その他	千円	555	575	1,228	1,187		
		一般	千円	0		0	131		
正職員人工数		人工	0.9	0.9					
正職員人件費		千円	6,955	7,034					
トータルコスト(事業費＋正職員人件費)		千円	7,510	7,609	1,228	1,318			
6．成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
○あがっている ●どちらかといえばあがっている ○あがっていない（停滞・低下）		観察会参加者数は、前年度より28人増加し295人でした。参加者の意識変化率は、昨年に引き続き100%です。観察会とは別に、環境出前講座や環境副読本の配布、環境問題作品コンクールなどを通じ環境問題に関する啓発を行っています。コロナ感染が社会的に落ち着いたことから、参加者が増えたものと分析しています。							
7．評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	環境副読本や出前講座は、小学校で活用されていて好評です。今後も学校に満足してもらえるように内容の充実を図っていきたい。					
手段効率化余地	あり	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地あり						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8．改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				■改善方向性					●維持 ○見直し ○廃止 ○事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
■事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				■備考・特記事項 or 進行管理欄					
第三次環境基本計画を策定し、環境目標を達成するため、各種の環境啓発を行う。また、環境問題の解決のため、市民・市民団体・事業者などと協働、連携を深め取り組みを進める。									